

【抄録】 J. Staszkiwicz & J. J. Wojcicki, 1979.
Biometrical analysis of *Trapa L. nuts*
from Poland. (原題はポーランド語)
Fragmenta Floristica et Geobotanica,
25 : 33-59.

ポーランド語の論文なので私には読めないが、比較的詳しい英文要約がついているので、図表と照合しながら検討すると内容の推察は難くない。

ヒシ属の実実は変異に富んでいて我々も悩むわけであるが、著者たちは、その特徴の類型化とサイズの計測を27ヶ所から得られたサンプルについて試みた。そして、その資料を数量分類学の手法を援用して解析した結果、明瞭に区別できる2つの種と、多くの中間型の存在を示すことができた。おそらく、ヒシ属は自由な交雑と、その雑種個体群の定着で多様な変異を示しているのだろうと考察している。(角野)

○川合禎次・川那部浩哉・水野信彦編「日本の淡水生物一侵略と攪乱の生態学」(東海大学出版会, 1980年11月, 194+26P, 2800円)

日本に侵入した淡水生物の生態。侵入一定着に成功した理由などを興味深く議論している。水草では、コカナダモとオオカナダモの分布拡大とそれにあざかったであろう性質が考察されている(生嶋功「コカナダモ・オオカナダモ一割り込みと割り込まれ」)。

○富山湖沼研究会編「富山の湖沼」(北国出版社刊, 1979年8月, 193p, 1200円)

富山県下の湖沼—といっても大半がため池やダム湖であるが一の自然誌。「富山新聞」に連載されたものであるという。一つ一つの池について歴史や伝説も紹介されていて、これらの水域が、いかに人々の生活に身近なものであったかを知ることができる。

○五味禮夫監修「群馬の湖沼」(上毛新聞社刊, 1980年2月, 305p+巻末資料36p, 1600円)

群馬県下の湖沼を自然科学的側面(地質, 水質, 生物など)に中心をおいて紹介している。「やがてたどるであろう群馬の湖沼の変遷の姿をみていただくためにも、現状をできるだけ忠実にお伝えしたいと願って……」とまえ書きにもあるように、各項目の記述は詳しい。地方湖沼誌としてよくまとまった好著だと思う。

○深泥池の自然と人 深泥池学術調査報告書(京都市文化観光局 1981年, 312p+植生図)

昭和52年度より行なわれてきた深泥池総合学術調査団の報告書。深泥池の水生植物群落は、昭和2年に天然記念物に指定されたが、その後の変化が著しいため現状の把握と今後の保護対策を立てようという主旨で今回の調査が行なわれた。人文, 地質, 気象, 水質, 動物, 植物など各方面の研究者が参加した。

植物関係では、文献リストにあげた4篇の他、暖地に残る浮島の生態について興味深い研究成果が報告されている。また、花粉分析の立場より、深泥池の歴史に新しい光が当てられている。

この報告書は一般にも頒布されることになっているので、興味のある方は、京都市文化観光局文化財保護課(〒606京都市左京区岡崎 京都館1F)に照会されるとよい。頒価 4000円。(角野)

○文献リスト

【1981—(1)】

伊藤一幸. オモダカ科雑草の繁殖特性. 種生物学研究 V : 47-61.

岩崎桂三. 「ホタルイ」の生態と除草剤反応性. 種生物学研究 V : 75-85.

植木邦和. 水生雑草ホテイアオイの諸特性. 植物と自然 15(9) : 33-37.

臼井英治. ハス—清浄の花(植物文化史16). 遺伝 35(7) : 92.

薄葉 満. 福島県中通り地方の食虫植物. 食虫植物研究会誌 No96 : 1-7.

歌崎秀夫. ホテイアオイを用いた水質浄化—伊丹市・昆陽池における事例から—. 公害と対策 17 : 110-114.

大滝末男. 水草の冬越し. 植物と自然 15(2) : 14-19.

角野康郎. 日本のヒルムシロ属. 植物と自然 15(9) : 4-9.

———. 深泥池の水質と水生植物. 「深泥池の自然と人」深泥池学術調査報告書 : 46-54, 京都市文化観光局.

北村四郎・村田源. 深泥池とその周辺の植物相. 「深泥池の自然と人」 : 55-82.

———. 深泥池とその周辺の植生.